

H30年度 相談支援部会振り返り・評価シート

H31年2月15日作成

1 今年度の活動について

【今年度の方針】

情報機能・教育機能の強化を図り、相談支援部会の役割である『個別ケースから生じた地域課題の抽出・解決に向けた取組方法の提案』についての理解を深める。

【今年度の取り組み内容】

開催回数	8回	開催月	6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月
------	----	-----	----------------------------

具体的活動内容

相談支援従事者として「社会資源の開発・改善」の役割を担うために、長岡市の地域状況を確認するための情報交換等(障害分野だけでなく他分野の取り組みや情報も確認)を実施する。

※各地域の状況確認・地域診断を通し、社会資源をはじめとした地域特性や地域差について理解する。

➡各支所地域及び旧長岡市内の地域状況等について、各担当地域の地域包括支援センター職員、保健師より情報提供を受け、部会メンバーで地域状況等の確認を行った。

【今年度の取り組み結果】

(今年度の活動からどのような結果となったのかを記載)

- ・各地域の地域状況について確認を行ったうえで、各地域の強み・弱みについてまとめを行った。
- ・相談支援従事者として改めて個別ケースと地域を照らし合わせる視点について確認を行った。

【取り組みの成果】 ※モニタリングを実施した場合のみ

(取り組みの結果が「どのように地域へ還元できたのか」をモニタリングから確認した内容の記載)

2 今年度の振り返り及び評価について

【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気づき、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

- ・地域のことが分かり、相談員がもっと知りたいという自発的な気持ちになれた。
- ・今年度の情報をどのように活かしていくかが課題。来年度は、得た情報をカテゴリに絞れば、話し合いやすかったり、課題を上げやすいと思う。より具体的に課題と向き合えるような工夫が必要。
- ・地域診断は改めて時間が必要であると実感。地域課題は最終的に個人に還元するもの。課題解決のため、地域診断がスピーディにできなければ個人を待たせてしまう。
- ・基幹センター主催の研修会とリンクさせられるとよいと思う。

【協議会の機能について】

今年度の活動の中で(活動の振り返りから)、どのような協議会の機能があったかを確認する。

※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	普段かかわりのない支所地域のことを知ることができた。背景を知ることによって支援に活かした。
調整機能	支援センターの相談員と顔を合わせて話げできた。保健師、包括支援センター相談員の普段の様子を聞いて顔の見える関係につながった。
開発機能	地域の強みや弱みをまとめることができた。
教育機能	支所地域の特性を知り、地域の強みや弱みを知ることによって何ができなかったのか納得できた。
権利擁護機能	地域の暮らしに合わせた計画作りが必要だと実感した。相談員が知れた新たな情報を支援に活かせること。
評価機能	支所地域の共通の課題は見えてきた。(困難であることを共感できた) 今後どう活かしていくか課題。

【今年度の振り返り・協議会の機能から確認できた成果】

※モニタリングによる成果(地域へ還元できたかどうかの成果)とは異なることに留意

- ・地域を知ることによってケースの背景がわかり、地域特性とケースがつながった。公的サービス以外に目を向けられるようになった。日頃の相談支援業務の中で、対象者の方の地域課題を話題に出すことで関係作りがしやすくなった。
- ・地域の保健師、包括との顔合わせができ相談しやすくなった。今後さらに連携できるとよい。
- ・部会や協議会とのつながりなど全体像がわかった。

3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 終了
継続・終了の理由	市内の相談支援従事者が、個別相談支援から確認した地域課題を情報発信・共有し、地域課題の解決に向けた取組を検討する場として部会を実施する。 (来年度より、相談支援部会本来の役割で部会を実施する。)

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

今年度の取り組みに対する モニタリングの実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	モニタリング実施時期	年	月
---------------------------	--	------------	---	---

※ワーキングのみ記載

【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】 ※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

- ・部会メンバーについて
→個別支援から地域課題を抽出する過程において、1事例につき参加する部会メンバーは固定としたい。ただし固定であれば複数名の参加は可。
- ・部会実施のアナウンスについて
→欠席率の高い事業所に対しては、改めて相談支援専門員の業務内容の一つに地域づくりがあることを伝え、その上で協議会の趣旨や目的を理解してもらえるような働きかけを考えていく(ヒアリング時や個々の事業所訪問時等を利用して行く予定)。併せて、他業務との兼ね合いは理解できるが、協議会参加も重要な業務の一つであることが確認できるような案内の出し方を検討していく。

【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】 ※来年度継続の場合

- ・来年度は通常通りに個別支援の中から地域課題を抽出し、課題解決に向けた取り組みを実施予定。
- ・課題抽出の方法としては、添付資料の通りにまずは課題集約と情報共有に注力したい。相談支援専門員として業務にあたる中で、地域にはどういったニーズや課題があると感じているかの実態を共有し、優先順位をつけて課題分析とアクションプランの作成を進めていく。
- ・来年度の部会メンバーを確認したうえで、一つのプロセスに要す期間等は検討していく必要がある。